

## ごあいさつ



取締役社長

蔭塚勝正

「進取の精神」。当社において120年間、脈々と受け継がれた理念です。沖牙太郎が1881年(明治14年)に明工舎を創設して以来、足掛け3世紀にわたり、沖電気はこの理念のもと、日本の情報通信の発展に貢献してまいりました。21世紀のスタートとともに、「ネットワークソリューションの沖電気」として明るく120周年を迎えることができましたのも、お客様、パートナーの皆様をはじめ、株主様、諸先輩、そして社員各位のご支援の賜物と、深く感謝いたしております。

情報通信産業の目まぐるしい発展の中、日本で初めての電話機製造に始まり、電信機、交換機、無線機器、半導体、コンピュータ等、常に時代の最先端にある技術・商品の開発・提供を行ってきた沖電気。その原点には、ベンチャー企業の先駆けともいえるべき創業者の、先見性と挑戦心があります。1999年、私は奇しくも沖牙太郎がかつて所有したモールス印刷電信機\*と邂逅し、その通信・情報への熱意に直接触れた想いがいたしました。

ここにまとめさせていただいた沖電気の120年のあゆみを創業の理念に照らすとき、各時代において率直に反省すべき点もございます。長い歴史を謙虚に省みるとともに、先見性と勇気をもって果敢に挑戦・行動する「進取の精神」の原点にあらためて立ち返り、「個」や心の触れ合い、地球環境との共存を大切にしながら、世界中のお客様に信頼される沖電気を目指して、次の10年の「飛翔」を成し遂げたいと存じます。皆様の更なるご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

\*榎本武揚(初代通信大臣)が幕末のオランダ留学中に購入、後に沖牙太郎が入手して通信省に寄贈した。写真の電信機は創業120周年を記念して、沖電気の技術陣が複製に成功したもの。

(2001年9月20日、通信総合博物館に寄贈)